

令和7年度 自己評価計画

								石川県立明和特別支援学校				
	重点目標		具体的取組	主担当	現状	評価の観点	実現状況の達成度判断基準	判定基準	備考			
1	教科指導力及び専門性向上(協働的な学びと個別最適な学び、端末等ICT活用)	①	児童生徒の発達や障害特性を踏まえて、教科指導における個別最適な学びの実現に向けて、専門性の向上を目指す。	教務課 研究研修課	昨年度に引き続き、学校研究として「どの子ども深く学ぶ授業づくり」をテーマに授業研究を行う。昨年度の実践では、全校で成果と課題を共有することができたが、今年度は、教科指導の研究実践から得た効果的な指導や工夫を踏まえ、教員一人一人の授業に生かすことに重点を置きたい。	【成果指標】 発達や障害特性に応じて、児童生徒が教科の見方・考え方を働かせられるような教科指導の実践を行っている。	学校研究や校内研修会等を通して、発達や障害特性に応じて、児童生徒が教科等の見方・考え方を働かせられる授業を行うことができた。 A: あてはまる B: ややあてはまる C: あまりあてはまらない D: あてはまらない	【A+Bが80%以上で達成】	評価者: 教員 9月: アンケートで判定 10月: 中間評価分析 12月末: 9月同様のアンケートで判定し、最終評価分析			
		②		各学部 GIGA推進		【満足度指標】 学校は、児童生徒の発達や障害特性に応じたICTの活用を図り、教科指導を行っている。				授業参観や通信、ホームページ等から、学校は、児童生徒の発達や障害特性に応じたICT機器の活用を図り、教科指導を行っている。 A: あてはまる B: ややあてはまる C: あまりあてはまらない D: あてはまらない	【A+Bが80%以上で達成】	評価者: 保護者 9月: アンケートで判定 10月: 中間評価分析 12月末: 9月同様のアンケートで判定し、最終評価分析
2	防災力の強化(災害対策の整備、防災教育の充実)	①	学校が抱える防災上の課題について、専門家からの助言を得ながら整理し、災害対策の整備を進める。また、児童生徒に必要で効果的な防災教育を推進し、防災への意識を高める。	防災実践委員会 保健安全課	令和6年能登半島地震を受け、学校の防災について整理してきた。その中で、備蓄品や備蓄リュックの内容物の見直し、及び避難時や引き渡し時の教員に求められる動きや教職員の防災意識等の課題が浮かび上がってきた。それらの課題に対し、1つずつ取り組んでいく必要がある。	【成果指標】 専門家のアドバイス等を得て、防災上の課題に対して改善を行っている。	専門家のアドバイスや研修会からの学びを通して、防災上の課題に対して、改善をすることができた。 A: 2つ以上改善した B: 1つ改善した C: 課題を考えたが改善できなかった D: あてはまらない	【A+Bが90%以上で達成】	評価者: 教員 9月: アンケートで判定 10月: 中間評価分析 12月末: 9月同様のアンケートで判定し、最終評価分析			
		②		各教員		【成果指標】 児童生徒に対して、効果的な防災教育に取り組んでいる。				専門家のアドバイスや研修会等からの学びを通して、場面に応じた防災学習や防災体験を行うことができた。 A: あてはまる B: ややあてはまる C: あまりあてはまらない D: あてはまらない	【A+Bが90%以上で達成】	評価者: 教員 9月: アンケートで判定 10月: 中間評価分析 12月末: 9月同様のアンケートで判定し、最終評価分析
		③		防災実践委員会 各学部		【満足度指標】 学校は、保護者と連携して危機管理体制を整備している。						
3	インクルーシブな交流活動の推進(多様な人々・地域連携による活動)	①	インクルーシブな交流活動を推進するため、各学部・学年において、より積極的に地域とつながる活動や様々な人々との交流活動を展開する。	各学部	各学部においては、地域の学校との交流活動を長年継続して行ってきた。また、作業製品等の販売活動も、年に数回行ってきており、継続的な学習活動として位置付いている。また、こども園や大学との交流も始まっているが、どちらも受け身から始まった活動である。学校から発信し、出向くような積極的な交流の姿勢地域に示していく必要がある。	【成果指標】 学部又は学年等において、地域との新たな交流活動に積極的に取り組んでいる。	学部又は学年等において、交流活動の意義や共生社会への参画の視点で、これまでの活動を見直し、よりよい地域との交流活動を計画実施することができた。 A: あてはまる B: ややあてはまる C: あまりあてはまらない D: あてはまらない	【A+Bが80%以上で達成】	評価者: 教員 9月: アンケートで判定 10月: 中間評価分析 12月末: 9月同様のアンケートで判定し、最終評価分析			
4	業務改善(業務の効率化)	①	各部(学年)や各課等の業務において、今一度業務の意義を考え、より効率的に進めていくために、改善意識をもって取り組む。	各学年 各課	昨年は、業務改善として前例踏襲での取り組み方を見直すように進めたが、十分な成果をあげることができなかった。今後、円滑に業務を遂行していくためには、今一度業務の意義を考え、限られた人員の中で、効率的に業務を遂行するための業務内容や手順を見直し、デジタル化を含めて改善を図っていくことが必要である。	【成果指標】 担当する業務の意義を考え、業務の効率化を進めている。	各課や学年において、それぞれの業務の意義について考え、これまでの取り組み方を見直し、効率化につながる改善ができた。 A: 2つ以上行った B: 1つ行った C: 見直したが改善はできなかった D: できなかった	【A+Bが80%以上で達成】	評価者: 学年主任・課長 9月: アンケートで判定 10月: 中間評価分析 12月末: 9月同様のアンケートで判定し、最終評価分析			